

11/23 木曜

大規模演習繰り返す

日米共同 南西諸島周辺で顕著

1面のつづき

2021年度は、台湾を含む南シナ海、東シナ海を舞台に米中対立が激化しました。21年4月の菅義偉首相（当時）とバイデン米大統領による首脳会談

では、共同声明に「52年ぶりに『台海海峡』について明記。日米同盟のさらなる強化や日本の軍拡で合意し、実行されきました。」とあります。また、台海も位置する南シナ海で潜水艦の存在を誇示することで、中国を抑止する狙いがあるとみられます。

した。陸上自衛隊と米陸軍が同年6月に全国各地で実施した実動演習「レスリュート・ドライバー21」（同年12月）では、南西諸島で

22年3月に『日本版

長射程の対艦・対空ミサイルを開発し、中国

を阻止する米海兵隊の海外への『殴り込み

作戦構想「遠征前進基地作戦」（EABO）に

兵遠征隊（31MEU）

が参加。島しょ防衛を想定し、鹿児島県

による最大規模の実動演習「レスリュート・ドライバー21」（同年12月）では、南西諸島で22年3月に『日本版

長射程の対艦・対空ミ

サイルを開発し、中国

を阻止する米海兵隊の

海外への『殴り込み

作戦構想「遠征前進基

地作戦」（EABO）に

兵遠征隊（31MEU）

が参加。島しょ防

衛を想定し、鹿児島県

による共同訓練を行

い、

陸自

・

22オースプレー

・

22才

・

スプレイ

・

共同訓練を行いました。同

月には日米のF-35Aス

テルス戦闘機による訓

練を初めて実施。日米

戦闘機による共同訓

練を深化させていま

す。

また、空自などは核

爆撃機B-52との共同訓

練を少なくとも5回実

施。B-52は米戦略核戦

力の柱の一つで、共同

訓練の常態化は、自衛隊が米国の核戦略に組み込まれていることを示しています。

23年1月の日米21ラス2では、中国について「インド太平洋地域および国際社会全体における最大の戦略的挑戦」と位置づけ、「南

西諸島を含む地域にお

いて、共同演習・訓練を増加させる」と確認しました。今後も中国を想定した訓練が強まる恐れがあります。